

自宅学習コース マニュアル

学習関係

●学習の流れ

① 予め当塾講師と決めて頂いた曜日・時間に「コーチングメッセージ」に学習を始め
る旨を伝えて頂き、学習を開始して下さい。

② 学習は基本、ICT 教材の「すらら」で行います。まずは各単元、「すらら」のレクチャー
をご視聴下さい。

③ 「すらら」のレクチャーが終わると「プリント学習」や「ドリル」が始まります。

「ドリル」で正答率 80%を取って下さい。

※「ドリル」で正答率が 80%より低い、または終わらずに「やり直し」と表示された場合
はもう一度同じ単元をやり直して下さい。

※途中、「すらら」のレクチャーを聞いても理解できない場合は「コーチングメッセ
ンジャー」や LINE にてご連絡下さい。（可能であれば LINE でご連絡下さい。LINE の方が分
からない問題の解説画像やビデオ通話でより分かりやすく指導ができます。）

④ 「ドリル」が 80%取れたら 1 単元終了です。次の単元に進んで下さい。

⑤ 「すらら」の学習を終了するときは最初同様に、当塾講師に「コーチングメッセ
ンジャー」にて終了の旨を伝えて下さい。

「すらら」学習 URL

catchon.jp

●小学生の主な学習内容

・低学年国語の特徴

小学生（低学年）の国語は「ことば」・「文字」「文」の3構成となっております。

「ことば」では「色に関係する」言葉や「季節に関係する」言葉等を学び、語彙力を伸ばす分野となっております。

「文字」ではひらがなやカタカナ、ローマ字などを学びます。

「文」では短文読解や長文読解について学ぶ単元となっております。

文章を読み、理解する「読解力」をつける単元となっております。

・高学年国語の特徴

小学生（高学年）の国語は学年相当の「読解力」を身につけるための学習構成となっております。最初は「文法」を学び、一文の構成について学習します。次に短文読解を学び、最後に長文読解を学習します。

・低学年算数の特徴

小学生（低学年）の算数は小学1年生～3年生向けの内容であり、「A」「B」「C」の3構成となっております。

「A」は小学1年生相当の内容となっており、「数の数え方」や「数の大小」について学ぶ単元となっております。

「B」ではたし算・ひき算・かけ算・わり算の計算方法について学ぶ単元となっております。

「C」では「時計」や「図形」に関する単元となっております。

・高学年算数の特徴

小学生（高学年）の算数は小学4年生～6年生向けの内容となっております。

前半は「小数」や「分数」、「概数」といった計算分野、中盤は「比」や「速さ」、「割合」の分野、後半は「平面図形」や「空間図形」といった図形分野に分かれております。

●小学生の主な学習の進め方

国語→「すらら」の国語は「読解分野」に特化した学習システムとなっております。

最初は「言葉」や「文法」について学び、語彙力や日本文の構成について学びます。

次に「言葉」や「文法」で学んだ内容を基に「短文読解」→「長文読解」の解法について学びます。

算数→主に2種類の学習方法があります。

1 つ目は、「計算分野」に焦点を絞り、各学年の四則計算を繰り返し学習し、「計算力」を身につけます。

2 つ目は各学年の教科書に沿って学習を進める方法です。教科書の予習・復習を行うことで学校の授業内容を円滑に理解する学習方法です。

より詳しい「すらら」の情報は下記「すらら」のホームページをご確認ください。

<https://surala.jp/service/about/>

●中学生の主な学習内容

国語→「すらら」の国語は主に高校受験用対策の教材となっております。

最初は「文法」から始まり、日本文の一文の構成を学びます。

次に「短文」を学び、最後に「長文読解」を学びます。「文法」→「短文」→「長文」と段階を踏んで学ぶことで読解が苦手な方でも分かりやすく学ぶことができます。

また、「読解」だけでなく、「古典」や「漢文」も同様に学ぶことができます。

数学→「すらら」の数学は各学年の教科書通りではなく、いわゆる「無学年方式」となっております。通常、中学校の学習は以下の様に進みます。

中学1年生次

①正負の数～一次方程式の「計算分野」

②比例・反比例の「関数分野」

③空間図形などの「図形分野」

中学2年生次

①式の計算～連立方程式の「計算分野」

②一次関数の「関数分野」

③証明などの「図形分野」

中学3年生次

①因数分解～二次方程式の「計算分野」

②二次関数の「関数分野」

③三平方の定理などの「図形分野」

中学校の学習は以上の様に「計算分野」→「関数分野」→「図形分野」の順番で各学年学びます。

ただ、このような学習の方法の欠点は、各分野次学年で学ぶ時には時間が空きすぎてしまい、前学年で学んだことを忘れてしまいやすい点です。

例えば、1年次で「一次方程式」を学ぶのが7月です。そして方程式を次に学ぶのが「連立方程式」で2年次の6月頃です。「一次方程式」を学んでから「連立方程式」を学ぶまでに通常約1年間空いてしまいます。

「すらら」では学習内容を定着させるため、「計算分野」や「関数分野」を一纏めで学ぶことができます。一纏めで学ぶことで前単元を忘れること無く、スムーズに学習することができます。

英語→「すらら」の英語は「英文法」や「英単語」の学習がメインとなっている教材です。英語を苦手とする多くの中学生のほとんどは中学1年生で習う「be 動詞・一般動詞」が理解できていない、或いは中途半端な理解になってしまっている方が多いです。「すらら」の英語は並べ替え問題や英作文問題が豊富に揃っておりますので何度も繰り返し学習することで「英文法」の基礎を定着させ、様々な英文法のルールが見えるようになります。

理科・社会→理科・社会といえば「暗記」のイメージが強い教科ですが「すらら」の理科・社会は分かりやすいアニメーションでの解説となっています。例えば、理科であれば学校で一度きりしか見ることができない「実験」の流れを何度でも見ることができるのでより記憶に定着しやすい教材となっております。社会も同様です。レクチャー内で分かりやすい絵や図を使いながらの授業なので頭の中で具体的なイメージをしながら進めることができます。

●中学生の主な学習の進め方

中学生は年3～4回の「定期試験」に向けて勉強する必要があります。

中学生の定期試験は5～9教科の試験勉強をする必要があります、幅が広いです。

PLOWSではまず、「数学」と「英語」の2教科から学習を開始します。

この2教科は定期試験前だけの学習では成績を伸ばすのが難しい為、最優先で学習致します。

※下記、中学1年生の学習例になります。

4月	すらら数学「正負の数」、「文字式」 すらら英語 教科書 P40 前後まで 予習
5月	定期試験2週間前までに学校ワーク 踏襲 ※必ず終わらせる
6月（定期試験2週間前～当日）	すららや学校ワーク中心で試験勉強

※可能であれば学校ワークの内容を覚えられているか保護者の方にテストしてもらってください。

PLOWSでは各教科、学校ワークの内容を20問出題して理解が深まっているのか確認テストを行っております。

●（中学生対象）必修テキスト購入方法

「必修テキスト」は教科書準拠の教材となっており、中学生の定期試験対策に役立つ教材となっております。塾用教材ですので一般的には購入ができないものとなっておりますが大久保駅の「第一教科書」という店舗にて誰でも購入可能となっております。

第一教科書 URL

daiichikyokasho.co.jp

●お支払い方法について

※銀行振込となります。

個別指導 PLOWS 北澤元彦

振込先：PayPay 銀行

銀行コード：0033

ビジネス営業部

店番号：005

口座番号：（普通）4852131

※受講中の注意点

①口座の振込は毎月5日までにお願い致します。

②授業料の中には「すらら」のIDアカウント代金も含まれております。

お支払いが確認できない場合、アカウントの停止を行う場合がございます。